

2023年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2024/9/30

団体名	一般社団法人 ドゥーラシップジャパン	活動タイトル	子どもたちが受ける性暴力被害の連鎖を断ち切る！	
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）			■ 活動風景	
●地域の望ましい社会状況(ビジョン)	<p>私たちは、1)誰もが自分らしく自信を持って生きられるような社会、2)必要な人に必要なケアが届く社会をめざしています。</p> <p>人が出産する際に「大切にされた」と感じられるケアは、性暴力被害者など特定の人だけでなく万人に良いケアであると言われています。そのようなケアは、産む人がその後の人生を前向きに捉えられるようになるばかりか、その子どもの将来も前向きに変えられる可能性があります。そのようなケアが、どこでも、誰でも受けられるような社会をめざします。</p>		2024年1月 支援者のための 東京勉強会	
●団体の社会的役割 (ミッション)	<p>性暴力被害にあった人が、その後二次被害にあいやすいという「暴力の連鎖」を断ち切るために、</p> <p>1) 様々なステークホルダーとともに学ぶ場を提供し、ともに考えることにより関係者間の連携を促します。妊娠・出産の経験が二次被害いとならず、妊娠中の人・産む人のエンパワメントになるようにサポートします。</p> <p>2) 性暴力の被害者が妊娠・出産する際に必要なサポートが全国各地でも受けやすくなるよう啓発、研修、関係団体との連携を行います。</p>			
●団体の活動基盤	<ul style="list-style-type: none"> ●人材育成：妊娠出産期に継続してサポートするドゥーラの質と数の確保。連携する医療者、専門家、行政関係者、被害者支援者の拡大。広報・経理・事務を担当する人材の確保。 ●物的資源：研修・啓発のための資料や活動報告書の作成・配布。ドゥーラケアの事例集の作成、相談窓口の設置。 ●活動資金：会費、寄付、自主事業による収入および、活動が安定して継続できるような委託や助成による収入の確保。 ●情報：性暴力被害者の妊娠・出産時の支援についてのデータの蓄積。被害者のニーズ調査や出産施設についての情報、活動の経過や成果について効果的な発信。 			
■ 活動報告		■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)		
<p>事業1. サバイバーに対する妊娠出産ドゥーラサポート：性暴力を受けて妊娠出産する人に非医療者として寄り添い、継続的に物理的・心理的サポートを行うドゥーラ窓口を、自団体及び協力団体において開設した。</p> <p>事業2. サバイバーが出産する際のケアについての研修会：東京と名古屋で対面研修を2回、オンライン研修を1回開催した。ドゥーラ、助産師、保健師、看護師、研究者、セラピストなど多様な人が集まり、性暴力の現状と、周産期の支援について学ぶ場になった。また、支援者同士のつながりを作る場ともなった。</p> <p>事業3. サバイバーの支援に対する医療者、行政、企業、支援団体の理解と啓蒙のための勉強会：情報の配布にとどまり勉強会までに至らなかった。</p> <p>事業4. 活動できるドゥーラを支える体制の充実：一般的なドゥーラの相談窓口の利用があった。</p>		<p>(1) サバイバーに対する妊娠出産ドゥーラサポート： 窓口開設達成 実際のサポート：予定2件、実施0件（問い合わせ2件）</p> <p>(2) サバイバーが出産する際のケア研修会： 予定3回、実施3回 参加人数：予定40人程、実際は延べ23人 実施後のアンケート：「サバイバーのケアについて基礎的な知識を持てた」という回答が、予定90%以上、実際は100%</p> <p>(3) サバイバーの支援に対する医療者、行政、企業、支援団体の理解と啓蒙のための勉強会： 予定1回、実施0回</p> <p>(4) 活動できるドゥーラを支える体制：相談窓口の利用あり</p>		
■ 事業を通じて得られたノウハウ		■ 望ましい社会状況を達成するための課題		
<p>情報発信について：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレスリリースの書き方を学び、実践できた。 ・発信先として想定していなかった団体を紹介してもらい、さらに幅広い対象を視野に入れることができるようになった。 <p>研修会での学び：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援者が孤立しがちで、研修会等を通じてつながりを作る重要性が改めて確認された。 ・対面研修を実施するためのロジスティクスについて経験が積み重ねられ、新たな機材の利用についても気づけた。 		<p>妊娠出産ドゥーラサポート：窓口開設について広報が足りていない。プレスリリース、関係団体へのアウトリーチを行い、次年度での実施につなげる。</p> <p>関係者との勉強会：他のイベント等企画準備で手がまわらなかった。人員やリソース配分を見直す。</p> <p>情報発信：</p> <p>新しい層にリーチアウトするための工夫が必要。アドバイザーと一緒に対策を練り、対象と発信の仕方について、具体的な数値目標を作る。</p>		
		■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）		
		この1年間の活動を通じて	妊娠出産ドゥーラサポート窓口が開設され、支援者同士のつながりを作り、支え合う機会を増やすこと	を達成しました。
		■ 受益者の具体的な変化（自由記入）		
		<p>支援者：非医療面でのサバイバー支援の重要性を理解してもらえた。研修会参加者の所属先でドゥーラについてのプレゼンの機会につながった。支援者同士が困ったときに頼れる先を見つけることができた。</p> <p>サバイバー：ドゥーラ窓口にお問い合わせがあり、支援先として検討してもらえた</p>		